



# 日本の緑化事情 / 日本の国土に合わせた工夫が必要

屋上緑化の中心的存在として使用されている「セダム類」とは、多肉植物の総称で、メキシコ・モンテペルサ・タイトゴメ・ツルマン・ネグサなど数多くの種類があります。

乾燥に強いために過酷な条件の屋上緑化に使用されるのですが、そもそも使い出したのは、ドイツです。ドイツでは20年以上前からセダム類を使った緑化を行いつつ、技術革新が進んできました。

しかし日本とドイツとは気候が違います。ドイツは夏は乾燥し、湿気も多く、なにより台風という大きな違いもあります。

大日化成では、現東京都市大学教授であり日本のセダムの権威者ともいえる、飯島健太郎氏と技術提携をおこない、緑化製品の開発を進めてきました。

ポイントは、セダム類は日本の降雨量であれば、それだけで充分に育ちますが、設置の環境によっては適度な灌水が必要になる。雑草が育たない環境を

作るために、土量を出るだけ少なくすることでセダム類だけが生育できるようにする。

セダムに花が咲くと枯れてしまうので、花が咲きにくいようにセダムそのものが育ちにくい環境を。このような要素で、VUS500は開発されています。

オリジナル軽量土・機能面も兼ね備えたパレット。何より、開花したり設置環境にあわず枯れてしまっても、出来るだけ全滅しないように一つのパレットに、複数のちがうセダムを入れていきます。

1〜3種類が枯れてしまっても、どれかが生き残るといいます。

その品種も開花時期をずらした品種を混ぜています。

このように、単にセダムを使えば良いと言ふものではなく、出来るだけ日本の環境で長く使えるように工夫を徹して作られています。

## 大日製品現場レポート

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

2020年7月に開催される予定で、東京オリンピックの世界的流行により現在、延期されています。オリンピックはこれまで、一度も延期されたことがなく、史上初のこととなります。

このオリンピックの開催にあたり、さまざまな関連する施設工事が行われ、弊社の製品も多数採用して頂き、場となる「新国立競技場（新宿）」また「競泳・飛込競技の会場」として使用する予定の「東京アクアティクスセンター」（江東区、パレオポール）や「バスケット等を使用する予定の「有明アリーナ」（江東区、パレオポール）や「フエニシングなどの近代的な競技場」の「武蔵野の森総合スポーツセンター」（調布、選手村）に、役員が宿泊する「選手村（中央区）」等様々な施設で弊社の材料が施工して頂きました。

建設会社様、防水施工業者様、販売店様には、この場を借りましてお礼を申し上げます。

今回、採用して頂いた製品の多くは、受水槽や雨水貯留槽等で使用するポリマーレシニング系塗膜防水工法（レシニングGR工法）と、耐有機酸対応の防水防水工



【おわりに】  
弊社と致しましては、今回の様な重要な施設工事の誇りに思いつつ、同時に、今後もいろいろな場面面で社会に貢献できるよう努めてまいります。引き続きご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

法（GRD工法等）です。使用する材料は全て水系で、防水工法は無溶剤型のエポキシ樹脂の上ビッグサンGR工法により、防水効果と防カビ効果も兼ね備えた複合防水工法で、密閉した地下ピット内でも比較的安心して施工できる材料です。この様な特性や実績・価格等様々な面を考慮して、採用して頂くことで、おたしめは、ないかと考えておたします。

**DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.**

- 本社  
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13  
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702
- 東京支店  
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F  
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

次号も  
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

## 映画で学ぶ 環境問題



サステナビリティの秘密  
原題：Cowspiracy

監督：キップ・アンデルセン  
：キーガン・カーン  
脚本：キップ・アンデルセン  
キーガン・カーン  
出演者：キップ・アンデルセン  
EXプロデューサー：  
レオナルド・ディカプリオ

上映：85分  
公開：2014年

レオナルド・ディカプリオは1997年公開のタイタニックで全世界に名をはせて以来、誰しもが知る映画俳優として有名ですが、意外と知られていないのが環境活動家でもあるということです。1998年には、陸域、海域、生物種の保全、および、気候変動の緩和と災害救援への取り組みを支援する「レオナルド・ディカプリオ財団」を設立しています。

俳優である一方としてプロデューサーとしても活動しており、幾つかの映画の制作にも携わっており、その一つが今回の、サステナビリティ

の秘密です。  
デューカプリオ自身が出演しているようなハリウッド映画ではなく、環境問題に迫るドキュメンタリー作品です。

環境問題のドキュメンタリーとして有名なものは、その作品が元になりノーベル平和賞を受賞した、元アメリカ副大統領アル・ゴア自身が出演した『不都合な真実』ですが、この映画の出演者でもあるキップ・アンデルセンは『不都合な真実』により環境問題に目覚め、その活動の末にこの映画を作るに至ったと作品中でも語っています。

環境問題に取り組むべく、節水や

節電を行って来ているにもかかわらず、向に良い方向に向かないことに疑問を感じて調べていく中で、畜産こそが地球温暖化の原因であると気づきます。環境保護団体はどれも取り組んでいないことから様々な環境保護団体に質問してもまたもな返答を得られず自ら出向いて取材していき、ドキュメンタリー作品となっています。

大気汚染の主要因は家畜の排泄物と餌を作るための森林伐採で、工業生産や輸送などの二酸化炭素排出量の比にならないという主張で、1リットルの牛乳を作る為に何トンもの水と飼料が必要だというような判りやすい解説をグラフや絵解きを用いて逐次入れていきます。とはいえそのデータはどこから来ているのか信憑性に欠けますし、エビデンス的なものは何一つ示されず、疑問もありません。

二酸化炭素排出に関して世界では日本でも規制が始まりましたが、欧州では数年前にはガソリン車の新車販売はできなくなりました。

他方で、プラスチックゴミの問題や、海洋汚染など、多岐に渡った環境汚染を阻止しようと様々な環境活動グループがありますが、どの団体も取り上げなかった家畜が排出するメタンガスにスポットを当てたのは斬新な切り口だと思います。

取材に応じた環境保護団体の広報担当者には畜産のことを突っ込むとそれぞれ当たり障りの無い回答であったり、専門では無い等の回答ばかりで

す。いわば各々の環境保護団体の主張にたてつくわけでは所からその主張を向かれていき、ついにはこのドキュメンタリーの制作スポンサーからも資金をたたれてしまっています。

そこで支援を行ったのがレオナルド・ディカプリオなのですが、彼はなぜ支援したのでしょうか？キップの主張に賛同したのでしょうか？いや決してそうではないと思います。

この映画では世界を救うのは菜食主義であるという主張なのですが、デューカプリオは菜食主義ではありません。環境保護団体はそれぞれ主張が違います。菜食主義で環境保護をというテーマに目をむけたこの作品を多くの人に見て貰うことで、世界中の人々へ環境問題により関心を持って欲しいのです。

団体の主張がそれぞれ違っても、個々の考えが違っても環境問題への意識という大きなベクトルを揃えるように、私はこの映画を揃えようか。私はこの分野、あなたはその分野それぞれで取り組んでいこうよという考えは重要な事です。

この映画はNetflixで見ることが出来ますので内容よりも観ることで環境問題への意識をより高めていただければと思います。